蕨12

広報WARABI

2008/平成20年

わらび・685

● 平成20年12月１日発行 ／ 発行所・蕨市役所
● http://www.city.warabi.saitama.jp/
● 蕨市の面積　5.10km²
● 11月１日現在人口：71,398人 前月比 +76人
男 36,516人　女 34,882人
世帯数：35,011
人口密度：13,999人／km²

直してもらってよかったね おもちゃドクターに感謝！

「ママ、おもちゃが動いた」。子どもたちの歓声と笑顔におもちゃドクターもにっこり。下蕨公民館では、こうしたボランティアの皆さんの力をお借りして、平成11年からおもちゃの病院を開いています。「おじちゃん、ありがとう」のひと言が、なによりの励みだそうです。

目　次

●特集／市立病院は“いま”…2
●織姫道中大行列……8
●リポートそこが知りたい…10
●まちの話題……11
●いきいきシルバーライフ…12
●親と子のニュースの小窓…14
●このまちに暮らして……15
●輝いていま　ひと……16

特集：市立病院は“いま”

安心して子どもを生み育てたい
“大丈夫”と言ってくれる医師はどこに

生まれたばかりの赤ちゃんを連れて秋の市民公園を楽しむご家族

全国的な医師不足により産科、小児科を閉鎖する病院が相次ぐなか、地域の中核病院として産科、小児科の充実に力を注ぐ市立病院。その取り組みをご紹介します。

全国的な医師不足で産科・小児科閉鎖も

最近、妊婦さんが８つの病院で受け入れを断られた後、搬送先で亡くなるという悲しい出来事がありました。救急医療体制に対する不安の声が高まっているその背景には、全国的な医師不足の問題があります。

これまで免許を取得した医師のほとんどは、出身大学の医局（診療科ごとの、教授を筆頭とした人事組織）に入り、付属の大学病院や関連のある自治体病院に派遣され、勤務していました。ところが、平成16年に新しい研修医制度が始まり、医師は免許取得後２年間の研修が義務付けられました。

この制度によって、幅広い分野の医療を学べるようになった反面、それまで毎年一定数いた医局の医師が減少しました。そうしたなか、医局は、大学病院の医師を確保するために、派遣先の病院から、医師を引き上げるようになったのです。

これまで医局からの派遣により常勤医師を確保してきた自治体病院の多くは、その影響で深刻な医師不足となりました。特に、その激務により、年々減少している産科や小児科の医師確保は非常に難しく、分娩を取りやめたり、診療を休止したりする病院も出てきています。

市内唯一の分娩施設 産科職員の充実図る

今年の１月から10月末現在で、市立病院の分娩件数は３８３件。昨年の同時期（３２８件）と比べ、50件以上も上回るこの数字は、市内で唯一分娩ができる医療機関に対する市民の期待と、それにこたえる産婦人科スタッフの責任を物語っています。

最近では、食事や出産時のサービスの充実などを目安に、病院選びをする傾向もありますが、出産は安全なものとは限りません。分娩時の異常は突発的で、状態は坂道を転がるように悪化することもあります。３ページ上段の声にもあるように、急変に対し、いかに迅速に対応できるかが、出産場所を選ぶ上で重要です。

市立病院では、「出産を安全に終わらせる」ということを最もたいせつに考え、できる限りの対策をとっています。

妊婦さんの救急搬送に迅速に対応するため、24時間３６５日、産婦人科医師が常に待機しているほか、緊急時にはすぐに

→をダウンロードし来年1月31日までに東京都霞ヶ関ビル内郵便局留 内閣府食育推進ポスター募集まで 詳細＝同食育推進室（☎03・3581・1189）

國本　佳世（くにもと　かよ）さん
錦町３丁目

病院が近いと安心感

蕨に引っ越す前、実家の近くの個人院で出産しました。病院を選ぶ上でまず考えるのは、家から近いということです。検診などで頻繁に通うことが多いし、緊急時を考えると、病院が近いと安心です。最近は、分娩を取りやめる施設が増えているので、市立病院にはこれから期待しています。

塚本　美穂（つかもと　みほ）さん
錦町１丁目

緊急時の対応が大事

来年４月に出産予定の私。蕨には越して間もないので、今も引き続き、１人目を出産し、慣れ親しんだ近隣市の産婦人科に通っています。この病院を選んだポイントは、緊急時の体制が調っているということ。いざというときに頼りにならないと思うと、安心して出産には臨めないですよね。

応援の医師が駆けつけられる体制が調っています。

黒牧謙一（くろまきけんいち）副院長（下囲み）、高木章美（たかぎあきよし）産婦人科部長が平成10年に赴任して以来、医師、助産師の確保に努めながら、妊婦さんとの信頼関係を築いてきました。

現在、産婦人科病棟は、４人の常勤医師と、10人の助産師、看護師など計19人で運営し、中規模の病院としては充実した構成となっています。

安心広がる妊婦検診 胎児異常を早期発見

妊娠中は、おなかの赤ちゃんの発育が非常に気がかりなものです。市立病院では、昨年10月から、通常の妊婦検診に加え、妊娠20週目に、臨床検査技師による超音波検査を行っています。この時期に、より詳しくおなかの中を調べることで、少しでも妊婦さんの心配を軽くし、また、異常があったときには、必要に応じて、リスクの高い妊婦さんや赤ちゃんの受け入れ施設である周産期センターや大学病院へ、医師が責任を持って紹介します。早め早めの判断で、少しでもリスクを回避できるように努めています。

助産師外来で心ケア 母親学級で出産準備

妊娠中から産後のケア、特に出産のときには、ずっと付き添い介助を行う助産師。妊婦さんにとって心強い存在です。市立病院では、助産師の人数が増えたことで、今年１月から助産師外来を開設しました。検診や保健指導を行うことで、妊婦さんたちとのコミュニケーションが図られ、出産への安心が広がっています。

また、母親学級では、妊娠中の健康法や食事法、赤ちゃんの抱き方などを計４回にわたって指導。立ち会い出産を希望する人には、ご夫婦そろって参加してもらい、出産に向けた準備をします。

心と体、そして家族が、出産への心構えをしっかりと持てることで、安心して出産に臨むことができるものと信じ、スタッフが一丸となって、応援しています。

産婦人科病棟24時

市立病院　副院長
黒牧謙一（くろまきけんいち）　産婦人科医師

市立病院では、妊婦さん１人１人に対していかによい形でサポートできるか、皆さんの気持ちを第一に考え取り組んでいます。出産年齢の高齢化により、さまざまな合併症をお持ちのかたも増えていますが、職員が一丸となって、すべてに対応できるよう万全を期します。

■食育推進に関するポスター募集／ホームページ（http://www8.cao.go.jp/syokuiku/more/promotion/poster/21/bosyuu.html）の応募用紙→

すべては新たな生命
1人1人の生命のために

11月11日、午後7時11分。
分娩室に響きわたる赤ちゃんの産声。
愛の結晶、家族のきずな―― 生まれる。

初めての出産。
予定日を4日過ぎ、
不安が募る。
激しい陣痛。
どのくらいの時間が
過ぎただろう。
助産師から
我が子を受け取る。
やっと出会えたね。
生まれてきてくれて
「ありがとう」。

寄り添うだけしか
できないのがもどかしい。
医師、助産師にすべてを託す。
無事生まれ、声が詰まる。
「よく頑張った…」。
肩を抱く左手に力が入る。
それ以上の、言葉はない。

すべてはこの瞬間のために…

医療現場に携わる
スタッフに走る緊張。
自然分娩にゆだねながら
母子の状態を見極める。
命を預かっている重圧。
赤ちゃんを無事両親の元へ。
母親が我が子を抱き
安堵(ど)の表情。
重圧からの開放。
皆で喜びを分かち合う。

今年１月から開始の小児科午後診療

生まれてからも安心 更に充実の小児科へ

　市立病院で出産した人にお話を伺ったところ、病院選びの目安の1つに、「総合病院、特に小児科があること」と、話してくれました。産後の不測の事態にも、各科が連携して対応できるからです。
　小児科は、一時、常勤医師がゼロになり、戸田市と輪番で担当している小児救急医療体制（土曜日の夜間と休日の昼夜、入院治療が必要な重症患者を受け入れる二次救急を担当。下表参照）に支障を来すなど、深刻な状況にありました。
　でも、小児科は子どもたちの健康を守るための、たいせつな診療科です。臨時の医師で診療を行いながら、引き続き大学の医局に派遣をお願いする一方で、病院独自に公募を行うなど、医師の確保に努めた結果、常勤医師を2人、採用することができました。
　これに伴って、「短い待ち時間で診察を受けたい」、「学校が終わってから診てもらいたい」など、以前から要望のあった声にこたえし、今年の1月から、段階的に午後の診療をスタート。現在は、火曜日を除く平日の午後2時半から4時まで窓口が広がりました。
　小児科では、一般外来のほかにも、午後に各種予防接種や乳幼児健診を行い、また、木曜日にアレルギー外来、金曜日には神経心身症と、専門医による予約制の外来も併設しています。
　多様化するニーズに対応していく体制づくりが今、着々と進んでいます。

救急医療体制

初期救急	入院を必要としない軽症の救急患者に対応するもの	急患診療所や在宅当番医制などで、市町村を単位に実施
第二次救急	入院や手術を必要とする重症救急患者に対応するもの	県内を16の救急医療圏に分け、地区ごとに複数の病院の輪番制で実施
第三次救急	生命の危機が切迫している重篤患者に対応するもの	県内６か所の救命救急センターで実施

市の中核病院として期待大きい市立病院

　今回、２～６㌻では、医師をはじめとする病院職員が一丸となり、皆さんに安心の医療を提供する様子をお伝えしました。
　でも、下段の声にもあるとおり、まだまだ施設面での充実や診療体制の拡充など、身近な存在の市立病院に対する期待は大きいものがあります。
　市が今後のまちづくりに役立てるために、毎年行っている市民意識調査でも、「市立病院の充実」は、市が取り組んでいる施策の重要度のなかで、常に上位に挙げられ、今年の調査でも、３位という結果となっています。
　しかし、冒頭２㌻でお伝えしたように、自治体病院を取り巻く状況は、たいへん厳しく、特に経営に関しては見直しを迫られています。そこで引き続き７㌻では、経営の改善に取り組む市立病院の、今後の方向性についてお伝えします。

赤ちゃんの成長を見守る乳幼児健診

平日夜も小児救急を

赤石（あかいし）　智子（ともこ）さん
錦町４丁目

　上の子がぜんそく持ちで、入院設備のある市立病院をよく利用していました。下の子が生まれてからも、我が家のかかりつけはここに決めています。でも、上の子のぜんそくがひどかったとき、平日夜間でも小児救急が受けられればいいなと感じたことがあります。地元の救急医療体制が調っていると、もっと心強いのですが。

待ち時間にも工夫を

三倉（みくら）　了加（りょうか）さん
中央６丁目

　市立病院はいつも混んでいるイメージがあり、足が遠のきがちになっています。子どもを小児科に受診させる場合は特にそうです。待ち時間が長いと子どもの落ち着きがなくなってきますので、遊び場とまでは言いませんが、子どもたちが少しでも楽しく待っていられるようなスペースがあると、親としても助かりますね。

ほっと・エッセイ ⑯

市制施行50周年

市長　頼髙英雄

　いよいよ来年4月に、蕨市は市制施行50周年を迎えます。7月から市民の皆さんと実行委員会を作り計画を練ってきましたが、先日、主な事業計画が決まりました。
　例えば、5月の第4水曜日に、15分以上運動を行った市民の参加率を自治体どうしで競い合うチャレンジデーの実施（負けた自治体は相手の市の旗を市役所に1週間掲揚しなければなりません）。民放の人気番組「なんでも鑑定団」の誘致（皆さんから１００点以上のお宝を鑑定に出していただかなければ放映されません）。いずれも市民参加がかぎです。
　市民に親しまれる蕨市のシンボルマークの制定や蕨の子どもたちが育っていく指針となるような「蕨市子ども宣言」の制定も計画しています。
　今日の蕨を築いてきたのは市民の皆さんです。市民のみんなが参加でき、蕨のすばらしさを全国に発信し、蕨の魅力・価値を更に高める、そんな50周年にしたいと考えています。
　そのためには、市民の皆さんの参加が不可欠です。ごいっしょに50周年を成功させましょう。

市民と市長の面会日
　毎月第1木曜日、今月は4日、1月は8日　午後1時～5時　ご希望のかたは、秘書広報課（☎433・7701）へ。

お便りお待ちしています
蕨市役所
秘書広報課広報広聴係
〒335-8501　蕨市中央5-14-15
TEL 433・7703　FAX 445・0586
E-mail hisho@city.warabi.saitama.jp
『広報蕨』へのご意見・ご感想のほか、身近な楽しい話題や催しなど、どんな話題でもけっこうです。お便りお待ちしています。

上写真：懇談会第１回目（２月７日）の様子
下写真：先月25日、市長に提言書を提出

みんなで経営見直し 信頼と安心の病院へ

　市立病院では、今後の病院の方向性について、広く市民の皆さんなどから意見をお聴きしようと、有識者や市民で構成する「蕨市立病院経営改革プラン懇談会」を設けました。メンバーは、各市民団体と公募の市民6人のほか、大学教授や医師会会長、市議会議員、県職員など計15人。懇談会では、「市立病院の存在意義と役割」や「診療体制と規模」のほか、「運営体制」、「市の財政負担」、「中期経営改革の策定」などについて、今年の2月から11月まで、延べ10回にわたり議論を重ね提言をまとめました。
　その1つに、医師の確保についても触れられています。例えば、市立病院の常勤医師は現在14人で、最も多い時期と比較して7人減少しています。こうした状況を解決するためには、医師が働きたいと思える魅力ある病院づくりを進めるとともに、大学医局からの派遣に頼るだけでなく、在職医師の人的ネットワークや公募などで常勤医師の確保に努めてく必要があるというものです。
　また、診療科目の編成については、市民要望も高く、子どもを安心して生み育てられるまちづくりを進めていくために、産婦人科や小児科の常勤医師の増員や午後診療の更なる充実を図ることも挙げられています。そのほか、高齢社会を踏まえ、増加する循環器や消化器などの疾患患者に対応できる内科の充実を図ることなどもあります。
　一方、懇談会では、総合案内所の改善など、すぐに実行できる意見もあり、早速、市立病院の玄関左に設けました。これにより、初めて病院を訪れるかたなどが、スムーズに診療できるようになりました。今後は、こうした提言を、医師や看護師などの病院職員で構成される院内経営改革会議で更に検討し、「蕨市立病院経営改革プラン」を策定していきます。
　市立病院は、このプランに基づき改革を進め、経営を健全化するとともに、皆さんから信頼され、安心感を求められる病院を目指していきます。

蕨市立病院経営改革プラン懇談会会長
大道（おおみち）　久（ひさし）
日本大学医学部教授

　懇談会は、医療を受ける側の市民が参加され、現場では気づきにくい多くの提言をいただくことができました。地域医療を守るのは、自分たちの病院としての皆さんの支えも重要です。この提言を基に、高齢者が自宅近くで診療が受けられ、子どもを安心して生み育てられる質の高い医療環境を調え、皆さんの期待にこたえられる運営を望みます。

■求人企業合同面接会／19日 午後1時～4時半 大宮ソニックシティ4階 対象＝来年3月に大学・短大・専門学校を卒業見込み（1～3年以内の既卒者可）の人　複数の履歴書持参 予約不要・入退場自由 参加企業の求人情報誌がもらえます 詳細＝埼玉県雇用対策協議会（☎048・647・4185）

まちの歴史を知ってほしい もっと蕨を愛してほしい

第25回中仙道武州宿場まつり・織姫道中大行列

時は江戸時代。中山道を往来する大名の一行が、江戸・日本橋から2つ目の宿場である、この蕨宿を訪れます。

まるで時代をさかのぼったかのような、この光景は、毎年11月3日の文化の日に開かれる「中仙道武州蕨宿場まつり・織姫道中大行列」での一幕。いにしえの蕨を今に伝える歴史絵巻です。

蕨宿として最も栄えた、約1キロメートルに及ぶ中山道本町通りは、蕨本陣跡をはじめ、ところどころに旧家や蔵などが立ち並ぶ、風情ある街並みです。

中山道界隈に住む人たちが実行委員会を立ち上げ、手作りで始められたこの祭りも、今年で25回目に。今では蕨を代表する祭りとして、例年10万人の人出でにぎわいます。

歴史や文化を継承することで、蕨を築き上げてきた人たちの誇りを語り継ぐ「宿場まつり」。まちの歴史に触れながら、明日の蕨を担う人たちに「もっと蕨を愛してほしい」。そんな願いが込められています。

■放送大学平成21年度第1学期生募集／出願期間＝15日～2月28日 1科目から受講可　資料請求・詳細＝同校埼玉学習センター（☎048･650･2611）

■春日部市立看護専門学校学生募集／試験＝1次･来年1月14日 2次･来年1月16日 40人 1万円　願書を9日～16日までに同校（☎048･763･4311）

福祉増進に新たな一歩

リポート　そこが知りたい

〈62〉

合併準備の進む社協と事業団

地域福祉のいっそうの推進を目指し、総合社会福祉センター内の蕨市社会福祉協議会と、蕨市社会福祉事業団が、来年4月1日の合併に向けて準備を進めています。この合併に伴い、今後の福祉サービスが、どう展開していくのかをリポートしました。

役割見直す外郭団体

まちづくりの指針である蕨市総合振興計画を実現するために、市では「蕨市行政経営戦略プラン」を平成17年に策定しました。このプランの中には、「外郭団体の見直し」の項目が盛り込まれ、制度の変化や時代の移り変わりに合わせて、団体の役割を見直し、統廃合を含めた改革を図るように市が働きかけをしてきました。

これを受けて、今年度進められてきたのが、総合社会福祉センター内の蕨市社会福祉協議会（社協）と、蕨市社会福祉事業団（事業団）、2つの「社会福祉法人」の一本化に向けた協議です。

合併で地域福祉増進

社協の主な業務は、高齢者の見守り活動や愛の給食サービス、ボランティア活動の振興や安心した生活を支援する福祉サービス利用援助事業、子育てを応援するファミリー・サポート・センター事業などの地域福祉です。

一方、障害者の就労支援や生活自立訓練と高齢者の在宅支援事業や軽費老人ホームの運営をしているのが事業団です。

これらの事業を分かりやすく一元化し、職員を流動的に活用しながら地域福祉のいっそうの推進を図ろうと、今年5月、両組織の理事会、評議員会で合併が同意されました。これは、全国的にも珍しい歴史的第一歩でした。そして、これに伴い設置されたのが、合併協議会と合併検討委員会です。「合併の方式」や「各種事務事業の取り扱い」など、全14回の合併検討委員会で協議され、その検討内容が、3回の合併協議会に諮られました。

出来上がった調整案は、10月に開かれた双方の理事会、評議員会で可決。先月17日には、合併調印式が行われたところです。

笑顔が広がってこその福祉です

総合的なサービスを

両組織で行ってきた事務事業63の内、62事業は存続。社協で実施してきた結婚相談は、女性登録者の減少などの理由から廃止する予定です。

こうした事務事業の見直しで経費を削減することは合併の目的の1つにありますが、市民の皆さんにとって、将来的に福祉サービスの向上、安定化を図ることが、なによりもたいせつです。

社協、事業団、それぞれの事業の特性を生かし、合併後は、支援を必要とする人に、より総合的な福祉サービスの提供を目指します。

例えば、事業団のホームヘルパーが認知症の高齢者を確認できた場合、社協の「あんしんサポートネット」で、定期的に訪問し、福祉サービスや暮らしに必要な情報の提供、日常生活にかかるお金の管理などをお手伝いすることが可能です。

また、社協から派遣された手話通訳者が、就労意欲のある聴覚障害者と出会った場合、事業団の障害者就労支援センターで、就職活動の応援をすることもできます。

合併後、こうした福祉サービスの幅を広げながら、だれもが安心した暮らしを送れるよう、2つの組織を一本化した「蕨市社会福祉協議会」が、福祉の重要な拠点として、来年4月1日に新たなスタートを切る予定です。

市政この一年

1月
14日　第62回成年式

2月
4日　蕨駅西口駅前まちづくり市民検討委員会発足
5日　インターネットオークションで旧市長公用車売却
7日　市立病院経営改革プラン懇談会発足
13日　高規格救急自動車等の更新
26日　蕨市消防団第4分団消防ポンプ自動車の更新

3月
17日　防犯灯設置・19年度分93基
28日　消防団第2分団待機所落成

4月
1日　くるみ保育園で延長保育
妊婦一般健診（5回へ増）
環境にやさしい店認定開始
老人介護保健施設グリーンビレッジ蕨オープン
岩瀬悦康氏副市長就任
4日　7番街区再開発事業起工
17日　コミュニティバスぶらっとわらび新車（2台）運行開始
蕨市総合振興計画市民懇談会設置
19日　苗木市　3万人
29日　通常学級に特別支援員配置
5月　1日　田中啓一さん名誉市民に
3日　市長タウンミーティング開催（～7月30日・全8回）
17日　子育て支援フェスタ
18日　元気な商店街づくり検討委員会発足
27日

6月
1日　クリーンわらび市民運動
5日　年金・労働相談開始
6日　塚越浄水場改修工事竣工
8日　社会福祉センターまつり

7月
1日　後期高齢者健康診査・特定健康診査（特定保健指導）開始
19日　国際青少年キャンプ（～31日）

8月
1日　歴史民俗資料館平和祈念展
7日　機まつり（～10日）　32万人
11日　中央浄水場改修工事着工
小学校校舎耐震補強工事実施（東・西・中東小）
路上喫煙禁止区域拡大（中山道エリア）
歯周疾患検診　60、70歳も対象に（～10月30日）
7日　合宿通学（～11月13日）
13日　お年寄りを敬う会
26日　生涯学習フェスティバル（～11月9日）
29日　蕨市消防団第2分団消防ポンプ自動車の更新
30日　図書館改修工事竣工
蕨駅東西口エレベーター設置工事実施設計委託
1日　こども医療実施
9日　戦没者追悼式
10日　富士見第2公園トイレ設置
17日　防犯・放置自転車クリーンキャンペーン実施
23日　第6回北足立郡市町人権フェスティバル
小・中学校校舎耐震補強工事設計委託（南・塚小・一中）
中学校校舎耐震診断委託（一中・二中・東中）
3日　自治功労者表彰式
けやき文化賞　池田敏之さん
9日　宿場まつり　12万人
17日　わらび健康まつり
歯っぴーわらび
金婚祝式　35組
18日　蕨市社会福祉協議会と蕨市社会福祉事業団合併調印式
蕨市環境フォーラム
28日　防災フォーラム

12月
7日　（予定）
クリーンわらび市民運動
消防歳末特別警戒市長巡視

20日　サマー・パーク・フェスティバル
23日　市制施行50周年記念事業実行委員会設置

■教育さいたマガジン（メール）読者募集／毎月21日に配信　登録は県教育委員会ホームページで　無料　詳細＝県教育局総務課（☎048・830・6714）

まちの話題

池田氏にけやき文化賞

地域文化の向上に貢献されたかたに贈られる第25回「けやき文化賞」の授賞式が11月3日、市民会館で開かれました。表彰された池田敏之（いけだとしゆき）さん（錦町1丁目）は昭和30年代から郷土蕨を油絵で描き続け、現在120点以上に。蕨を知る貴重な作品として高く評価されました。

親子で学んだ火災予防

11月7日、子育て支援センター「こっこぴよ」が消防署の見学会を開き、17組の親子が参加しました。救急車や消防車、はしご車などを見学したほか、腹話術とアニメで火災予防のたいせつさをあらためて確認した皆さんは、火災を出さないよう防火意識を高めました。

老若男女が健康づくり

市民の健康づくりを応援する「わらび健康まつり」が11月9日に開かれました。中央公民館では講演会や各種測定などが行われ、600人が参加。また、保健センターでは697人がフッ素塗布や歯科健診などを行い、参加者は自分の健康や生活習慣を見直していました。

心伝わる善意のおそば

市内のそば組合に加盟している14店の皆さんが中心となって、出来たてのおそばを味わってもらおうと、11月13日、松原会館で60歳以上のかたを対象に第33回善意のおそばプレゼントが開かれました。参加した約250人は、熱々のてんぷらそばに心も体も温まりました。

南小児童が演奏で交流

11月14日、南小学校の吹奏楽クラブの児童14人が、障害者福祉センタードリーマ松原を訪問しました。会食やレクリエーションを通して触れ合いを深めた後、児童たちが演奏会を開くと、ケアハウス松原やハート松原の利用者も集まり、その音色に聞きほれていました。

情報ダイヤル

掲載は無料です
問秘書広報課（☎433・7703）

〔見に来ませんか〕

▶子どもミュージカルラビコ2008公演「DREAM～ドリーム」　21日　1回目＝午後1時　2回目＝午後3時半　東公民館　無料　本格的なミュージカルが楽しめます＜松浦・☎431・2692＞

〔差し上げます〕

▶ペット　①犬 14歳　②猫 13歳　差し上げに伺います＜午後7時以降に佐藤・☎080・5379・8073＞

〔譲ってください〕

▶車いす　なるべく新しい物で手でこげる物 価格は相談で 取りに伺います＜井上・☎433・7931＞

▶子どもの着物・浴衣　無料で　取りに伺います＜伊藤・☎447・1092＞

〔教えてください〕

▶ハチの生態について詳しいかたご連絡ください＜原田・☎445・8652＞

〔仲間になりませんか〕

▶蕨南バドミントンクラブ　①水曜日　午後5時半　②土曜日　午後2時半　南小学校体育館　月1,000円＜午後3時以降に上田・☎445・8782＞

▶新舞会（新舞踊）　金曜日　午後1時　南公民館　月3,000円＜森田・☎442・8487＞

▶スターフレンズ（ストレッチ体操・レクダンス）　火曜日　午前10時　北町公民館　入会金1,000円　月1,000円＜米田・☎443・2763＞

▶いきがい書道クラブ（書道・ペン習字）　第1・3土曜日　午前10時　下蕨公民館　月1,500円＜午後4時以降に山口・☎443・6181＞

▶子ども日舞　水曜日　午後4時　東公民館　幼稚園児～小学生　月2,000円＜伊藤・☎447・1092＞

▶生け花クラブ　第1・3水曜日　午前10時　南公民館　入会金1,000円　月3,000円（材料代込み）　初心者歓迎＜渡辺・☎441・8487＞

▶楊名時（太極拳）　土曜日　午後2時半　蕨駅東口駅前ラ・セーヌビル　月4,500円　随時体験可＜浦島・☎224・5915＞

〔ご相談ください〕

▶アルコール依存症の自助活動　月曜日　午後7時　中央公民館　お酒をやめたい人＜AA浦和・☎03・5957・3506＞

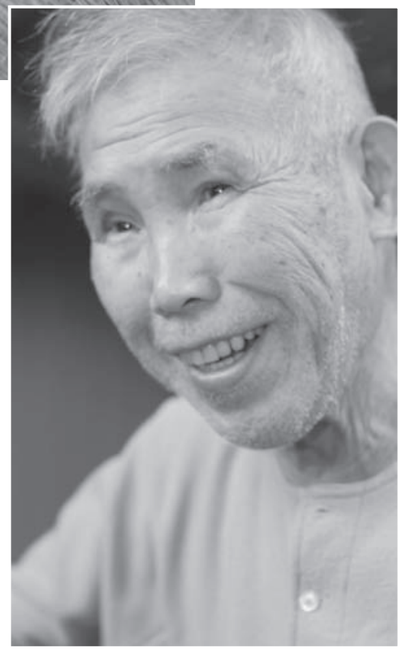
▶蕨断酒会（酒害相談）　2日＝中央公民館　10日＝南公民館　18日＝旭町公民館　午後6時半＜岡田・☎441・3172＞

■埼玉県最低賃金の改正／時間額722円に改正　原則的に県内すべての労働者・使用者に適用　問い合わせ＝埼玉労働局賃金室（☎048・600・6205）

いきいきシルバーライフ

パイスケ作りに光る職人の技
磨き続けたその手が語る蕨の歴史

大正から昭和にかけて蕨で行われていたパイスケ作り。時代の流れのなかで、その技術を引き継ぐ人はただ1人となってしまいました。半世紀以上もの間、何万個にも及ぶパイスケを作り続けた手で、伝統文化を今に伝える職人、嶌崎昭治（しまざきしょうじ）さんをご紹介します。



芸術的な手さばき

冷たい土間。その上には年期の入ったゴザと作業台。昭和の面影を残す作業場に入ると、篠竹のさわやかな香りがしてきます。半世紀以上もの間磨き続けた、硬く厚みを帯びた手で、ヒゴ（竹を裂いたもの）を縦、横、斜めに組み合わせ、パイスケ（次ページ上囲み参照）を作る嶌崎昭治さん（錦町5丁目・80歳）。底から縁にかけての難しい部分も、左手の感覚だけで角度を決め、節ばった指先を巧みに使いながら、芸術的としかたとえようのないリズムで編み上げます。「ここまでの道のりは遠く険しいものだった」。ひたすらにパイスケを生み出し続けた手がそう語ります。

大正から昭和にかけて、法華田（ほっけだ）（錦町と北町の一部）で盛んに行われていたパイスケ作り。嶌崎さんが奉公としてこの道を歩み始めた昭和16年当時、中山道沿いには、材料となる篠竹がところ狭しと並べられ、数十人の職人が汗を流していました。

14歳で弟子入りした、少年嶌崎さんの手では硬い竹を編み込む作業は厳しく、まずは農作業などで何度もマメを作り、強い手を作りました。

仕事を与えられてからも、そこは職人の世界。兄弟子の背中を見て覚える環境のなかで、疲れ果てた体を休める就寝時も、うわごとのように作業工程を口にしながら手を動かし、パイスケ作りを自分のものにしていきました。「みんなそうやって覚えたものだよ…」。年

昭和30年代の法華田の様子

→前9時～午後4時　受付＝物品関係　来年1月5日～30日　建設・設計関係　来年2月2日～27日　平日午前9時～正午　詳細＝同組合（☎048・441・7711）

パイスケとは

石炭や道具などを運ぶ竹かごのことで、バスケットがなまり「パイスケ」となった、といわれています。明治時代に静岡県裾野（すその）市周辺で作られていたパイスケを、法華田の人が買い、それをほどいて作り方を習得したのが始まりです。

❶歴史を感じさせる手　❷長年愛用の道具　❸編む前にヒゴを水に浸して柔らかくする　❹底を編む作業　❺作り終えて妻昭子さんと一息

輪を刻んだ優しげなまなざしの奥に、職人としての強さをのぞかせます。

こうして昭和35年からは、独立してパイスケ作りの看板を掲げるようになった嶌崎さん。作業場の目印となった、ケヤキの大木を目指して、問屋さんが毎週のように買い付けに来たそうです。

夢中で作り続けるあまり、当時作業場から見えた京浜東北線が、いつのまにか走っていないことで真夜中に気づく。そんな日々を送ったそうです。

仕事に一途だった嶌崎さんですが、1人で職人の道を歩んでこられたわけではありません。お茶を入れてくれたり、寒いときはひざ掛けをそっと掛けてくれたりと、妻昭子（てるこ）さんのたゆまぬ支えがあってこそ、口数の少ない「昔かたぎの職人」が、仕事に没頭できたようです。

歴史と伝統は続く

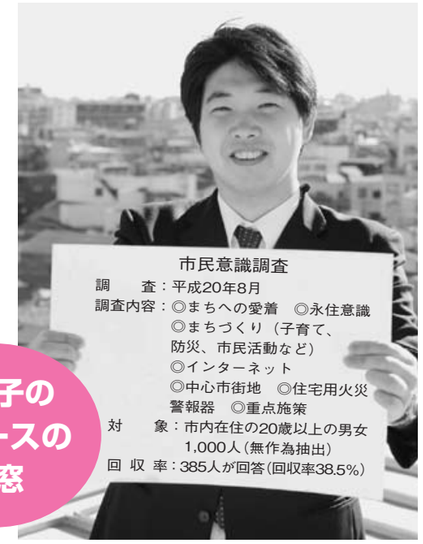
時代の流れのなかで、職人仲間は「みんな天国へ逝ってしまったな…」と語る嶌崎さん。市内でパイスケを作れる人は嶌崎さん1人となってしまいました。「職人どうしの行き来があった時代が懐かしいよ…」。人生の大半をささげたパイスケ作りの灯火が消えかかる現実に、寂しさを覚えます。

本業としてのパイスケ作りを終えてからも、趣味の畑作業の傍らで、今でもパイスケを編む嶌崎さん。時には市内の催しで、作り方の実演をすることもあります。でも嶌崎さんにとって、なによりうれしいのは、パイスケ職人の看板でもあった、ケヤキの大木を切り倒した今でも、こだわりを持った人が、買い求めに来てくれることです。「これじゃなくちゃ」。そんな声を聞く度に、「やっぱりパイスケ作りはやめられないかな」。とほほえみながら語ってくれました。

もともと、静岡で作られていたパイスケを法華田の人たちが買い付け、それをほどいて作り方を覚えていった蕨でのパイスケ作り。嶌崎さんの作品が残る限り、灯火が消えることはありません。

■戸田競艇組合平成21・22年度指名競争入札参加資格申請受付／申請書配布＝物品関係　4日～26日　建設・設計関係　来年1月5日～30日　平日午→

あなたの声を聴き まちづくりに生かす 市民意識調査まとまる



親と子のニュースの小窓

無作為に抽出した20歳以上の市民1,000人を対象として、8月に行った市民意識調査の結果がまとまりました。今月は、まちづくりの基礎資料となるこの意識調査で伺った30項目の内、「まちへの愛着」や「重点施策」など主な項目についてご紹介します。

市政を進めるためのたいせつな調査

ワラビ　パソコン使ってるなんて珍しいね。

お母さん　市のホームページで市民意識調査の結果報告を見ていたのよ。

ワラビ　なぁに、それ？

お母さん　市で毎年行っている調査よ。市民の皆さんからいろんな要望や意見を聴いて、これからのまちづくりに生かすことが目的なの。

ワラビ　へ～。どんな質問内容なの？

お母さん　主なところで、「まちへの愛着」や市の「重点施策」などかな（上写真内の囲み参照）。

ワラビ　重点施策？

お母さん　そう。防犯対策や商店街の活性化、子育て支援など、もっと市に力を入れてほしいことや今のサービスで満足していることなどを質問しているのよ。

ワラビ　たいせつな調査ってことだね。

市民の声やまちの変化をキャッチ

ワラビ　そうだね。

お母さん　市立病院も経営改革に乗り出すって話だから、いろいろ市も力を入れているわけね。それに調査では、毎年新しい質問や、年ごとの変化も調べて、まちづくりに役立てているのよ。

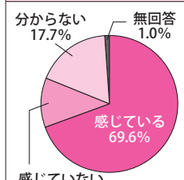
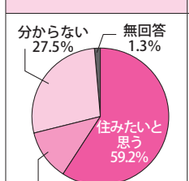
ワラビ　みんなの声が、生かされているんだね。

お母さん　重点施策の「重要度」では、1位が「防災・消防・救急体制」、2位「防犯対策」、3位「市立病院の充実」。みんな命にかかわることばかりね。

ワラビ　僕も大地震や犯罪は怖いよ。

お母さん　そうね。でも、ワラビが通う小学校も今年の夏に工事をして地震に強くなったわけだし、地域の皆さんの協力で防犯パトロールも強化されてきているわ。

調査の結果は市役所市民活動推進室、公民館、図書館、市ホームページで。

まちへの愛着	愛着を感じる理由	重点施策		地震などの災害に備えてなにか準備をしていますか
		重要度	満足度	
	1位　買い物など生活に便利だから	1位　防災・消防・救急体制	1位　コミュニティバスなどの公共交通の充実	1位　消火器を備えている
	2位　生まれたところ、育ったところだから	2位　防犯対策	2位　下水道の整備・雨水対策	2位　非常用飲料水を用意している
	3位　自然災害、都市災害が少なく安全だから	3位　市立病院の充実	3位　ごみの減量とリサイクル	3位　ヘルメット、携帯ラジオ、ロウソクなどの避難用具を用意している
	4位　道路、上下水道などが整備されているから	4位　介護サービスの充実	4位　生涯学習の充実	4位　非常食を用意している
	5位　市民が親切で人情味が富んでいるから	5位　学校教育の充実	5位　公園緑地の整備・緑化推進	5位　家具などの転倒防止をしている
永住意識	ずっと蕨に住みたい理由		蕨には住みたくない理由	
	環境上	生活上	環境上	生活上
	1位　住みなれているから	1位　消費生活が便利だから（買い物の便がよい、物価が安い）	1位　まちに魅力がないから	1位　教育・文化などの公共施設が少ないから
	2位　道路、下水道などが整備されているから	2位　通勤、通学に便利だから	2位　まわりに緑や公園がないから	2位　消費生活が不便だから（買い物の便が悪い、物価が高い）
	3位　隣近所の人たちと気心が知れているから	3位　家族構成に見合った住居が確保されているから	3位　親戚や知人が少ないから	3位　福祉が遅れているから
	4位　親戚や知人が多いから	4位　福祉がゆきとどいているから	4位　道路、下水道などが整備されていないから	4位　子どもの教育に不便だから
	5位　災害に対して安全だから	5位　子どもの教育に便利だから	4位　住みなれていないから	5位　家族構成に見合った住居の確保が困難だから

■医療関係者は従事状況等の届け出を／31日現在で医師・歯科医師・薬剤師・看護師等従事者は来年1月15日までに川口保健所（☎262・6111）へ

このまちに暮らして

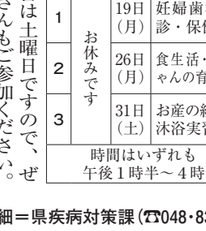
バット アベードラさん　パキスタン　塚越2丁目・42歳

歴史的な建物や庭園で有名なパキスタンのラホールから16年前に来日し、8年前から蕨市に住むアベードラさんは、日本で結婚し、今は3人の子を持つお父さんです。「青春時代を日本で過ごしたから、気持ちはもう日本人。たまに故郷へ行っても、すぐに蕨に帰りたくなる」と笑います。

市内でも特に、「駅が近いし、市民公園がある塚越が好き」とおっしゃいます。休日は子どもたちを連れて、市民公園によく遊びに行くそうです。

来春に控えた、長女のサミア愛菜（あきな）ちゃんの入学式が今から楽しみだというアベードラさん。学校を通して、家族と地域のつながりも深まれば、と期待を膨らませています。

わが家のアイドル



陽太（はると）ちゃん（2歳2か月）　牛久（うしく）　朝之（ともゆき）さん　佐緒利（さおり）さんの長男　錦町3丁目　—442—

「走り回るのが大好きな陽太は、近くの児童館に連れていくと、いつも近所の子とかけっこをしています。ときには『ママも～』と、私がヘトヘトになるまで付き合わされるんですよ。一方、最近夢中なのが電車を見ること。自転車に乗せ、埼京線がよく見えるお気に入りのポイントに行くのが2人の定番コースです。『ゴー』という音が聞こえると、普段見せないほどはしゃぐ陽太。私までつられて楽しい気持ちになりますね」と、母親の佐緒利さん。

子どもクラブ　身も心も温まる自然教室

青空とみどりの教室

東公民館では、自然との触れ合いを通して子どもたちの協調性と想像力をはぐくもうと「青空とみどりの教室」を開いています。先月の22日は、塚越公園で飯ごう炊さんと豚汁作りに挑戦しました。ボランティアの指導の下、うちわで懸命に火をおこしたり、切った野菜を大鍋に入れたりと、慣れない屋外での調理に奮闘しながら、約2時間で完成させました。子どもたち40人は、協力して作ったあつたかいご飯とたっぷりの豚汁で体を温めると同時に、青空の下での交流を通して、心も温まりました。

赤ちゃんメモ

（問）保健センター（☎431・5590）

◎新生児・産婦訪問指導
対象＝赤ちゃんが産まれてから4か月児健診の前月まで（第2子以降のお子さんも可）。

内　容
保健師、助産師による ・赤ちゃんの身体計測 ・発育や育児についての相談 ・お母さんの産後の相談

※赤ちゃんが産まれたら出生連絡票（母子健康手帳の最後のページに付いているはがき）をお送りください。

◎離乳食講習会

とき	対象	内容
12月 9日（火）または 17日（水）	平成20年8月生まれの第1子の保護者	離乳食の上手な進め方と作り方、試食
1月 14日（水）または 22日（木）	平成20年9月生まれの第1子の保護者	

時間＝午前9時45分～11時45分　**ところ**＝保健センター　**託児**＝先着10人　**持ち物**＝母子健康手帳、筆記用具、赤ちゃんを連れて来る人はバスタオル、ビニール袋（おむつ持ち帰り用）、ほか必要な物

◎プレママ講座～妊娠中のママたちへ／1月29日（木）　午後1時半　産婦人科医師による妊娠・出産についてのお話、先輩ママとの交流会　※電話でお申し込みください。

◎両親学級

回	とき 12月	とき 1月	内容
1	お休みです	19日（月）	妊婦歯科健診・保健
2		26日（月）	食生活・赤ちゃんの育て方
3		31日（土）	お産の経過・沐浴実習

時間はいずれも午後1時半～4時

3回目は土曜日ですので、ぜひ、お父さんもご参加ください。
費用＝400円（テキスト代）
持ち物＝母子健康手帳、筆記用具
※事前に申し込みが必要です。

◎乳幼児健康診査・相談
対象のお子さんには個人通知しています。**持ち物**＝母子健康手帳、問診票　※対象月に受けられないときは翌月でも受けられます。

	とき	対象児	受付時間・ところ
4か月児健診	12月10日（水）・11日（木）	平成20年7月生まれ	午後1時～1時45分 保健センター
	1月7日（水）・8日（木）	平成20年8月生まれ	
1歳6か月児健診	12月16日（火）・17日（水）	平成19年5月生まれ	
	1月13日（火）・14日（木）	平成19年6月生まれ	
3歳児健診	12月5日（金）・12日（金）	平成17年11月生まれ	
	1月9日（金）・16日（金）	平成17年12月生まれ	
4歳6か月児健診	12月18日（木）	平成16年5月生まれ	午後1時15分～2時 保健センター
	1月22日（木）	平成16年6月生まれ	
1歳児相談	12月10日（水）・11日（木）	平成19年11月生まれ	午前10時～10時半 保健センター
	1月7日（水）・8日（木）	平成19年12月生まれ	

■エイズホットライン30時間連続電話相談／6日の午前9時～7日の午後3時　受付番号（☎048・825・3060）　詳細＝県疾病対策課（☎048・830・3557）

広報蕨　六八五号　平成二十年十二月一日発行　毎月一回発行　印刷・㈱秀飯舎

輝いていま ひと

新体操中学新人大会個人総合３位

宮本（みやもと） 仁桜（にお） さん

目標に進む意欲が夢の近道へ

広さ13平方㍍のフロアマットでたたずむ姿が、とても小さく感じられる第一中学校２年生、宮本仁桜さん（中央１丁目・13歳）。ひと度演技が始まると、すらっと伸びた細い手足と得意のボールで舞う姿はとても大きく、身長１４０㌢㍍を感じさせません。

先月の12日、彩の国くまがやドームで開催された新体操中学新人大会では、23・３７５点で個人総合３位に輝きました。１位との点数の差は、わずか０・０２５…。

芸術性を競う新体操は、見た目の華やかさとは対照的に、練習は１日４時間、週５日というハードなもの。更に宮本さんは自宅でもイメージトレーニングとストレッチを欠かしません。大きなけがもなく活躍できるのは、こうした徹底した自己管理のたまものです。

テレビでリボンの華麗な演技に魅せられた小学１年生のとき、『広報蕨』の「県陽ジュニアクラブ」の記事を見て入会。上位入賞が常連のクラブの中で、入会後からすぐ大会に出場し結果を出し続けています。「彼女にはまじめさと意志の強さがある」と畠山淑江（はたけやまよしえ）コーチ。

「後悔より、たいせつなのは反省を生かした練習です。それがいい演技をする自信につながるから」と笑顔の後「今も新体操を楽しみたいから練習し、力強く表現力豊かな演技を身につけたい。目標は全日本選手権での優勝です」と真剣なまなざしに。

この秋、僅差で逃した経験は、大きな夢の扉をまた少し開けたようです。

ぷらっと・わらび・小さな旅

シルバーワークプラザ

ぷらっとわらび西ルート21番目の停留所「錦町１丁目西」から徒歩約３分の所にある市営住宅「錦町２丁目第２住宅」。この１階には、蕨市シルバー人材センターの会員約20人が、座布団やお手玉などの縫い物、机やいすなどの木工製品を作る、シルバーワークプラザがあります。

「皆さんお茶にしませんか」。だれかのそんな声で始まる、休憩時間のおしゃべりもプラザの魅力。会員の皆さんは「そんなにお金にはならないけれど、気の合う仲間に会いに来る」とおっしゃいます。

作った製品は苗木市、機まつり、宿場まつりなどで販売されています。「先日の宿場まつりでもたくさん売れたんですよ」とにっこり。ここでの活動は、皆さんの生きがいの１つになっているようです。問い合わせ＝蕨市シルバー人材センター（☎433・０９６２）

わらびの野鳥・虫・草 282

ヤナギハナガサ

11月中旬のある日、取材のために中央２丁目辺りを自転車で走っていると、ヤナギハナガサのピンク色の花を見つけました。クマツヅラ科の多年草で、南アメリカ原産の帰化植物です。高さ１～1.5㍍になるまっすぐな茎は上部で枝分かれし、その先に直径５㌢ほどの小さな５弁の花を、たくさん付けます。花期は一般に夏から秋にかけてですが、立冬を過ぎて、いよいよ寒さが厳しくなってきたこの時期に、散り残った小さな秋の名残を楽しむことができました。

●広報蕨　№685　●発行／蕨市役所　〒335－8501　埼玉県蕨市中央５－14－15　☎048（432）3200　●編集／秘書広報課広報広聴係

広報に載っている写真を希望者に差し上げます　秘書広報課広報広聴係までご連絡ください